

平成21年度モデル事業の実施状況

＜鳥羽市＞ 島内における資源循環モデル検討事業

離島におけるごみ減量化を推進するため、住民等と連携して生ごみ処理機の設置や堆肥等への利用方法の検討などを行い、地域(島内)における資源循環モデルの構築をめざす。

- (経過)
- 9月初め — 市と島内住民による第1回会議
趣旨・事業概要説明、意見交換、集積所の現地確認
 - 9月～10月 — 生ごみ収集・堆肥利用に関する島民アンケートの実施・集計
 - 10月～11月 — 第2回会議、
鳥羽市リサイクルパークの生ごみ完熟堆肥の島内配布・利用
 - 12月～ 1月 — 生ごみ処理機の機種選定
 - 2月～ 3月 — 処理機設置、生ごみ分別講習会 (4月～ 分別回収・処理の開始)

※処理機は「バイオ式」(微生物による高温好気性発酵処理)の機種に決定



現在の生ごみ炭化処理機

<名張市> 福祉・地域づくりと一体となったごみ収集システム等 検討事業

効率的なごみ収集システムの構築をめざし、地域住民やNPO等と連携して、ごみの戸別収集方式からステーション方式への変更と高齢者等支援について検討・試行を進め、あわせて、ごみ減量に向けた生ごみ・草木類の分別収集や資源化についての検討を行う。

- ・市快適環境審議会(通算7回開催)において「ごみゼロ社会をめざすアクションプログラム」改訂を審議し、検討結果報告を受け策定した次期計画案について、市内14地区の住民説明会等で意見を聴取、年度内の成案化をめざす。
- ・計画案の柱として「生ごみ・草木類の資源化」と「高齢者・障害者等世帯へのごみ出し支援」を位置づけ、前者は分別収集→再資源化(堆肥化)の方向性を打ち出し、後者は、収集システムモデルとして、大型回収ステーションを2箇所設置(1箇所/300戸)し、あわせて、市高齢者見守り策「要援護者等日常生活支援事業」と連携した自治会契約NPOによるごみ出し支援実施により、収集を効率化した。

<四日市市> 複合的ごみ減量・リサイクル施策検討事業

ごみ減量・リサイクルの推進をめざし、地域住民・NPO・事業者等と連携し、レジ袋有料化や簡易包装の推進、資源物回収拠点の設置など、複合的なごみ減量施策の取組を推進する。

- ・近隣3町(朝日、川越、菰野各町)の担当者、事業者も参画する、地域住民・NPO等団体・事業者・行政で構成する「ごみ減量リサイクル推進協議会」を3回開催(H22.2月現在、準備会合1回含む)。
- ・ごみ減量リサイクル推進店(仮称)の登録・運営の仕組みづくりについて検討中。
スーパー等小売店における、ごみ減量に向けた複数の取組メニュー(ex:レジ袋有料化、エコマーク商品取扱、資源物店頭回収、簡易包装推進など)の検討を前提に議論を行っており、H22.4.1からの四日市市、朝日町、川越町の3市町の参画店舗におけるレジ袋有料化が決定された。